

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®](試行)認証申請書

2022 年 11 月 8 日

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 阪南市
(法人番号 1000020272329)
住所 大阪府阪南市尾崎町 35-1
氏名 阪南市長 水野謙二 
(申請者) 特定非営利活動法人
大阪湾沿岸域環境創造研究センター
(法人番号: 9120005007367)
住所 大阪府大阪市浪速区幸町 3-1-10
氏名 理事長 中原紘之 
(申請者) 尾崎漁業協同組合
(法人番号: 1120105007316)
住所 大阪府阪南市尾崎町 3-27-14
氏名 代表理事組合長 南佳典 
(申請者) 西鳥取漁業協同組合
(法人番号: 3120105007322)
住所 大阪府阪南市鳥取 1115
氏名 代表理事組合長 相良康隆 
(申請者) 下荘漁業協同組合
(法人番号: 7120105007319)
住所 大阪府阪南市箱作 3341
氏名 代表理事組合長 西澤勝 

(法人又は団体の場合には、名称及び代表者の氏名)

法人番号 (法人番号の付与を受けている場合には、13桁の半角数字)

Jブルークレジット制度実施要領の規定に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

(第1号様式)

プロジェクト番号	☒ 新規申請 ☐ 登録番号 ()
プロジェクトの名称	～魚庭の海・阪南の海の再生～「海のゆりかご再生活動」
プロジェクト実施者・場所	【実施者】 同上 【場所】 阪南市尾崎町8丁目および3丁目地先、阪南市鳥取地先、阪南市新町地先、阪南市箱作地先
プロジェクト区分 (複数選択可)	☒ 自然基盤 ☐ 人工基盤 ☒ 吸収源の新たな創出 ☒ 吸収源の回復、維持、劣化抑制 ☐ 水産養殖含む ☒ 水産養殖は含まない
プロジェクト概要	【プロジェクト概要】 「海のゆりかご再生活動」は、子供たちが我が町の海の豊かさを、アマモ場保全活動を通じて実感し、将来自慢できるようにしていきたいとの思いで、2006年より、阪南市立西鳥取小学校と連携して、2015年度まで毎年アマモ苗育成・移植によるアマモ場再生活動を実施してきました。 2016年度から2018年度は、学校による活動の自立を目指して日本財団/東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター/笹川平和財団海洋政策研究所が主催する「海洋教育パイオニアスクールプログラム（一般部門）」にエントリーして実施しました。 2018年11月に開催した「全国アマモサミット2018 in 阪南」の開催に合わせ、2017年12月より阪南市立舞小学校、下荘小学校が活動に参加し、3校によるアマモ場再生活動に広がりました。なお、全国アマモサミットには延べ1450名が参加し、各小学校のアマモ場再生活動の発表を行いました。また、2019年6月29日に開催されたG20大阪サミット配偶者プログラムの「海は輝くいのちの源」をテーマとしたシンポジウムにおいて、各小学校の児童代表が登壇しアマモ場再生活動の紹介と海の大切さについての意見交換を行いました。 2019年4月からは、活動の持続性をさらに高めていくために、阪南市教育委員会に実施主体の「海洋教育パイオニアスクールプログラム（地域展開部門）」として、各学校

	の活動を推進するとともに、学校内でのスキルアップを図るための教職員研修も行っています。2020年度からは阪南市立尾崎小学校、2021年度からは阪南市立上荘小学校が活動に参加し、現在は5小学校で活動を行っています。 毎年の活動の各団体の役割は以下の通りです。 ● 阪南市（各小学校） アマモ苗移植（5月） アマモの花枝採取と生き物調査（6月） アマモ種子選別（9月） アマモ苗床づくりと播種（11月） アマモ苗育成（11月～翌年4月） ● NPO 大阪湾沿岸域環境創造研究センター アマモ場面積調査（4月～6月） アマモ開花状況確認（4月） 大阪湾の環境とアマモ場再生の講義（5月～9月） 各小学校の活動の技術指導（4月～3月） ● 各地域の漁業協同組合（尾崎、西鳥取、下荘） 現地活動のサポート（施設の利用など） 各小学校の漁港見学および漁業の授業の講師 クレジットは、小学校によるアマモ場再生活動を地域全体で協力しながら継続的な活動を推進していくための経費に活用すると共に、購入企業様の参画・参加による活動の活性化にも期待しています。 クレジットを取得することによって、アマモ場再生の継続的な活動が担保され、地域のアマモ場の保全・拡大につながると共に、地域の海洋教育が継続的に推進されていくことから、海洋環境保全への意識が子供たちから地域全体に広がり、漁業を含めた地域の活性化に結びつくと考えています。また、阪南市が進めている「SDGs 未来都市」、「自治体 SDGs モデル事業」、「環境省ローカル SDGs（地域循環共生圏）実践地域」などの施策とも深く連携しており、継続的な小学生の活動との相乗効果が期待されています。 【申請対象期間に実施したプロジェクト概要】 2017年4月29日～30日 アマモ開花状況確認（花枝採取時期および採取場所決定のための調査）
--	---

(第1号様式)

		2017年6月12日 アマモの花枝採取・生き物調査 2017年9月12日 アマモ種子選別 2017年11月20日 アマモ苗床づくり・播種 2017年11月21日 アマモ苗床づくり・播種 2017年11月21日～2018年5月17日 アマモ苗の育成 2018年4月18日～20日 アマモ場面積調査 ※詳細は別添1に示す。
プロジェクト実施期間		2006年4月～現在
クレジットの認証申請対象期間		2017年4月29日～2018年4月20日
方法論	① 対象生態系面積の算定方法※	【対象とする生態系】 ☒ 海草 ☐ 海藻 ☐ マングローブ ☐ 干潟 ※別添1のとおり
	② 吸収係数	文献として、「桑江朝比呂, 吉田五郎, 堀正和, 渡辺謙太, 棚谷灯子, 岡田知也, 梅澤有, 佐々木淳: 浅海生態系における年間二酸化炭素吸収量の全国推計, 土木学会論文集 B2 (海洋工学), 2019」の表-4に記載されているアマモ場吸収係数(4.9t-CO ₂ /ha/年)を用いて計算した。
	③ 吸収量算定方法	【算定した式】 活動量×吸収係数 【算定結果(吸収量)】 $(面積\ 1.17ha \times 自己評価\ 80\%) \times (吸収係数\ 4.9\ t-CO_2/ha/年 \times 自己評価\ 75\%) = 3.4\ t-CO_2$
	④ 確実性の自己判断	面積は、UAVで藻場が鮮明に撮影されていることに加え、藻場全域を目視で確認し、さらに被度については密生以上を面積としたが、被度別計測がないことから面積の確実性の自己評価は80%とし、吸収係数の確実性の自己評価は75%とした。
	⑤ 調査時に使用した船舶の情報	・台数 ※船舶の使用はありません。 ・出力 ・稼働時間 ・燃料の種類
ベースラインの設定方法・妥当性とその量		昭和46年(1971年)度の大阪府水産試験場事業報告によると、対象区域内の箱作自然海岸でアマモ場が認められていた(面積は不明)が、昭和47年から着工となった「せんなん里海公園」の造成(埋立て、人工海浜整備:平成8年完成)により対象区域が埋め立てられたため、昭和52

(第 1 号様式)

	年（1977 年）度の同事業報告では“消滅した”とされている。このことから、ベースラインはゼロとする。 ＜参考資料＞ 大阪府水産試験場：昭和 46 年度大阪府水産試験場事業報告，pp. 45-47，1971 大阪府水産試験場：昭和 52 年度大阪府水産試験場事業報告，pp. 91-93，1979
クレジット認証対象の吸収量	3. 4t-CO ₂